



SUBARU

2016 年 7 月 29 日発行 通巻 56 号札幌稲雲高校図書館



夏といえば・・・

北海道だけじゃないの!?

知っていますか? 北海道の神秘的な海

8 月と言えば海、夏といえば海、海と言えば、神秘的に満ち満ちた海の生き物達ではないでしょうか。

北海道の海には、魅力的な生き物がたくさんいます。そこで、泳げない方でも見ることの出来る、磯の生き物をいくつか紹介していこうと思います。

まず始めに紹介するのは、見た目と裏腹に食べることで出来る、ナマコです。色はほとんど黒に近く、少し赤が混ざった色をしています。全身に大きめの突起がありますが、毒がある訳ではないので気軽に触れることができます。また、ナマコは砂泥の小動物や腐食物を食べて暮らしているため、海の掃除をしてくれています。珍味らしいので、機会があれば是非挑戦してみてください。

次に紹介するのは、アメフラシです。アメフラシは、茶色っぽい色をした、15 cm くらいの軟体生物です。大きいものでは 30 cm にもなるそうです。海草を食べて暮らしているため、とても大人しいです。そのため、人間に危害を加えてくる事ありません。また、アメフラシの特徴として、触るなどして驚かせると、紫色の体液を出す、というものがあります。海中だと、この体液が煙幕のように広がります。この煙幕が雨雲にそっくりだという事から「アメフラシ」という名前が付けられたそうです。

このように、海には非常に面白い生き物がたくさんいるのですが、危険な生き物もいたりします。その一つがクラゲです。海の中をゆらゆらと漂っている姿を見かけたことがある人もいると思います。まず、ご存知の通りクラゲは刺します。長さが色々なあの触手で、刺してきます。もし刺されると、とても痛いです。種によっては、痛いだけでなく毒をもっていたりするので注意してください。もし自分の近くにクラゲを発見した場合、逃げましょう。万が一刺されてしまった場合、一度海水で患部を洗い流し、氷水などで冷やしてあげるとよいです。もしも変な症状が現れた場合、皮膚科に受診に行きましょう。悪化すると、呼吸困難、全身症状を引き起こす危険性があります。せつかくの夏ですから、海へ行って思い切り遊ぶついでに、生き物を観察してみてはいかがでしょうか。



全国的に七夕は7月というイメージがありますが、北海道は一部の地域を除いて8月というのが一般的です。なぜひと月遅れているのでしょうか？

そもそも、七夕とは7月7日の夜だけに逢うことの許された織姫と彦星の2つの星に願いごとをする行事です。この織姫と彦星の七夕伝説は中国から日本に伝わり、7月15日のお盆と合わせり今の七夕ができたそうです。ちなみに日本人ではじめて七夕を行なったのは持統天皇であり、691年7月7日に宮中で七夕の宴を催したと「日本書紀」に記録されています。ですが、この頃はまだ彦星織姫伝説は伝わっておらずこの七夕伝説が知られるようになったのは意外にも、もっと後の江戸時代以降だそうです。そしてこの頃に今の七夕にかかせない短冊に願いをこめて釣り下げた笹かざりも行われるようになってきました。

こんなにも歴史ある行事「七夕」ここで、ひと月遅れた北海道の七夕の謎を解明していきましょう。

実は、七夕がひと月遅れているのは北海道だけではなく日本各地にあるようです。その多くは、東北地方にかたまっており、あの有名な「ねぶた」も七夕行事のひとつとして行われています。

では、なぜひと月も遅れているのでしょうか。これは、昔、日本が旧暦から太陽暦に移行した時に起こってしまったいわば、時期ずれのせいなのです。七夕の行事は本来、秋の行事でありその古来の行事の季節感を大切にしようとした結果ひと月遅れの七夕が存在しているのです。もしかすると、七夕以外にも、ひと月遅れの行事がまだ沢山あるかもしれません。それを探してみるのもおもしろいかもしれませんね。

大盛況!! 古本市

僕は、初めての学校祭で、古本市の店番をやりました。並べられた本は意外に多く、50~100円と、かなり安い値段で売られていました。他にも、図書館手作りのシュシュやしおりなども置いてありました。八日、九日の二日とも、多数のお客さんが足を運んでくれてうれしかったです。

知的な夏に！

「ポーラ美術館コレクション～モネからピカソ、シャガールへ～」

みなさんはポーラ美術館を知っていますか？ポーラ美術館というのは 2002 年に神奈川県箱根町で開館した私立美術館です。この美術館はポーラ化粧品で知られるポーラ・オルビスグループのオーナー、鈴木常司さんが設立しました。ここには鈴木さんが数十年にわたって収集した美術品約 9 5 0 0 点が展示されています。収集体の中核をなすのは、19 世紀以降のヨーロッパの近代絵画で、国内有数の作品の量と質を誇っています。

そんなポーラ美術館がこの夏、北海道にやってきます。といっても 9500 点すべてではないですが・・・「ポーラ美術館コレクション～モネからピカソ、シャガールへ～」(道立近代美術館)ではポーラ美術館に所蔵されているコロー、クールベに始まり、ルノワール、モネ、ピサロ、シスレーら印象派の画家の作品を観覧できます。モネは「睡蓮」など 6 点、ピカソはピカソの当時 8 歳の長男を描いたとされる「花束を持つピエロ扮したパウロ」などが展示されます。この展示は道立近代美術館にて 7 月 2 日(土)から 8 月 28 日(日)まで見るができます。サイトなどでこの絵をすこし見ましたがどれも生で見たい！と思うものばかりでした。この夏休み、勉強の息抜きに美術に触れてみませんか？名画があなたを待っています。



あ！あなたの後ろに！

怪談・・・化け物や幽霊などの出てくる気味の悪い話と、怪談についての説明を簡単にしてみました。そしてその怪談の季節と言えば、暑い熱い夏でしょう。先に述べたように、怪談には、妖怪・幽霊・怪奇現象が必須になってきます。では、その主役とも言えるような「妖怪」の起源について、知っている人も知らない人も、新しい発見があるかもしれないので読んでくださったら嬉しいです。

まず、妖怪とは何なのかを説明したいと思います。妖怪とは、日本で伝承される民間信仰(教義とか教団組織をもたずに地域共同体に機能する庶民信仰)において、人間の理解を超える奇怪で異常な現象や、それらを起こす不可思議な力を持つ非日常的・非科学的な存在のことです。これは、日本古来の生物、無機物を問わない全ての中に、霊が宿っているという考え方(アニミズム)や、森羅万象(あらゆる現象、宇宙に存在する一切のもの)に神の存在を見いだすものです。一方で、否定的に把握されてきた存在や現象は妖怪になりうるという、表裏一体の関係がなされてきていました。

続いて、怪談について話したいと思います。

元々、さまざまな怪奇現象に関する物語は、民話や伝説、神話の中にも多数存在しており、平安時代末期(1120年頃)の「今昔物語集」などの古典文学にも多くの怪談が収録されていて、それらを題材にしてまとめているのが「雨月物語」(1776年)であり、有名な「四谷怪談」「番町皿屋敷」「牡丹燈籠」の「日本三大怪談」の内、最初の二つは歌舞伎の題材にも取り上げられています。

余談ですが、怪談が夏の風物詩と考えられる由縁は、歌舞伎で「この演目が夏に行われていたから」ということらしいです。また、落語の世界でも演出にいろいろな工夫を凝らし伝承に力を尽くしたとされた「怪談噺」があり、演目には、「牡丹燈籠」「お菊の皿」「子育て幽霊」などがあります。

近年では、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が、古くから伝わる日本各地の怪談を集めて、自らの解釈により、情緒豊かな物語にして「怪談(kwaidan)」(1904年)として一冊にまとめています。誰もが知るような「ろくろ首」や「雪女」などもあるので読んでみてはいかがでしょうか。

明治末期には、スピリチュアリズムの影響を受けて「怪談ブーム」が到来し、百話目を話すと怪奇現象が起こるといった、「百物語」を文学者たちが催したりしました。「遠野物語」についても、古くから遠野の地に根づくような話、例えば「オシラサマ」とかが世の中に広がるきっかけになったのもこの怪談ブームがあったからなのです。

このように怪談とは、日本の古くからのアニミズムや習慣、その地域ごとの文化が色濃く残っているものであり、人々の娯楽として楽しく怖く読むこともでき、日本をもっとよく知るためにはとても良いものだと思います。夏の夜を涼しくしてくれる怪談にもこの様な歴史があるのです。あなたも怪談を読んでみてはいかがでしょうか・・・

コラム 昔話 ① 裏話

～かぐや姫の無茶ぶり：後編～

さて、前回のコラムで書いた通りかぐや姫からの無茶ぶりを受けた五人の男たちはどうしたのでしょうか。1 人目——石作皇子(いしつくりのみこ)は偽物を持ってきて誤魔化そうとしますが偽物だと見破られてしまいました。二人目——車持皇子(くらもちのみこ)はこれまた偽物を作らせ、冒険の話をかぐや姫に聞かせて騙そうとしましたが結局これも偽物だと見破られてしまいました。三人目——阿倍御主人(あべのみむらじ)は唐の商人に偽物売りつけられてしまいました。四人目——大伴御行(おおとものみゆき)は本当に龍に会おうと海に漕ぎ出して行きましたが嵐に遭い、ぼろぼろになって戻ってきました。五人目——石上麻呂(いそのかみのまろたり)は燕の巣の中にある子安貝を取ろうとして見つけたと思いきや手をつかんだものが燕の糞だったというまさに「甲斐(貝)なし」ということになってしまいました。そしてこの時に腰を打ちつけ、その傷とショックが原因で死んでしまいます。

つまりかぐや姫の無茶ぶりには誰も答えられず、あまつさえ死人が出ているのです！

しかも当のかぐや姫はその後、時の帝からも求婚を受け文通をするなどなんだかイイ雰囲気。まるで五人の男性なんてどうでも良かった、と言わんばかりですね。(一応石上麻呂のことは少し心配していましたが・・・)

絶世の美女、清純なお姫様という良いイメージのかぐや姫ですがこの話を聞くと何だか悪女にも見えてしまいますね！